

一九九六（平成八）年九月二十三日

布教五十年記念大祭

並びに秋季靈祭及び
道願美弥子姫五十年祭
野村トヨ姫二十五祭
を迎へ奉りて

金光教土佐高岡教会

何れも世に
たれど世に
世にたれど
世にたれど
世にたれど

◎ 目 次

ページ

一、 布教五十年大祭を迎え奉りて（野村颯璋） ・ 一

一、 土佐高岡教会布教記念大祭
並びに 秋季霊祭 及び
先代親先生年記祭を迎え奉りて（野村登茂子） ・ 三

一、 職 員 名 簿 ・ 十一

一、 布教五十年記念大祭
並びに 秋季霊祭 及び
道願美弥子姫五十年祭
野村トヨ姫二十五年祭
式次第 ・ 十二

一、祭典後教話・十四

一、吉備舞奉納・十四

一、神人の栄光・十五

一、真心の道を迷わず失わず・十六

布教五十年大祭を迎え奉りて

どなた様にも、本日は誠にありがとうございます。

ここに、本日、土佐高岡教会布教満五十年記念大祭をお迎えできましたことは、誠に有難いことと思います。土佐高岡教会は、初代教会長野村トヨ師によって、昭和二十一年の戦後の世相混乱の中で世の難儀な人々を救い助けたい一心で、この高岡の地に布教を始められたのであります。それから寝食を忘れ、「只一筋に人が助かりさえすれば」との教祖様の願いのままに、生神金光大神御取次の道の実現に尽くし、次々に難儀な人々が救われ道は次第に広がり、おかげを蒙られた方々の中に、おかげだけに止まることなく道を求める人々も段々とできてまいり、初代教会長が二十四年間御取次下さり、今日の教会の礎を築かれたのであります。

その後を至らぬ私（野村顥璋）が教会長として、御用に立たせて頂き只年月を重ねて来ただけのことではありますが、二十五年余りのおかげを蒙りここに五十年という尊いお年柄をお迎えできましたことは、本当に勿体なく有難いことでございます。

さて、五十年祭の記念大祭をお仕えさせて頂きこれですんだのではありません。ここから布教を改めて二十一世紀にむかって新たな展開をしてまいらねばなりません。そのためには、まずは私共の心を開き柔軟な心になり、今日までの信心を問い直してみると、信心はどうかすると、信心するから「ああせられん、こうせられ

ん」というような、どちらかといえは窮屈な生き方を求めるものが立派な信心のようになり、信心するところが苦しくなったり、億劫になったり、しまいには信心を止めようかと思うようにもなります。そんな信心は本当の信心とは申せません。これらの信心は誰でも気軽に教会に参拝でき楽しく心の故郷が教会でなくてはなりません。世の中のストレスから解放されるところが教会の役割でありたいと思います。それには、私共教会の者は勿論であります、信奉者お一人おひとり、信心を明るく、楽しく進めてまいりたいものです。

目先のおかげばかりを、おかげおかげというて求めてまいりますと、信心は暗い方へ暗い方へと向いていきます。明るいところ楽しい心になるには、『世話になるすべてに礼をいふところ』しかありません。前教主金光様のこのお言葉を大切にここからの信心を進めて、お年寄りから子供までだれでも楽しくついてこれる信心の足跡を付けてまいりましょう。

どなた様にも、今後共よろしくお願い申し上げます。

平成八年九月二十三日

金光教土佐高岡教会長

野村 颯 璋

土佐高岡教会布教記念大祭
並びに秋季靈祭及び
先代親先生年記祭
を迎え奉りて

野村 登茂子

半世紀のあゆみの中で

一、祈られる幸せ、無からの出発。

終戦を迎え、世相厳しき時代の中、高知親教会での修行を終えられ、新規布教をされるべく、昭和二十一年四月、道願政治郎親先生と、先代野村トヨ親先生は、御本部へ参拝され、前もって政治郎親先生が、布教地としてどうであろうかと思われた、三ヶ所の地名を書かれた紙を、三代金光様に出され、「どこに布教をさせば、よろしゅうございましょうか。」と御取次くださると、高岡と書かれた地名に丸印をつけてくださり、三代金光様の御心により、先代トヨ親先生の布教地が決まり、高岡で、御用されることになったのであります。

布教されるための家探しに、昭和二十一年九月十一日、高知から歩いて、高岡町吹越の、一軒の店の前まで来られると、ぴたりと足が止まられ、後には下がれるが、前には進めないという不思議な事が起こり、その店の主人にそのことを話されると、そういうことならと、神様のおかげで、二階を貸してもらおう事になり、布教地、高岡町吹越で布教される事が決まったのであります。

高知親教会修行中、政治郎親先生のお子様である、道願美弥子様が御病氣になられ、先代トヨ親先生も、一生懸命看護をされたが、時期も悪く治療の甲斐もなく、昭和二十一年一月二十一日、二十五歳の若さで、お国替えになられる時の御遺言で、修行生である、先代トヨ親先生に御礼を申され、「私は教会に生まれ、お育てを頂いたが、何の御用のお役にも立たず、死んでいくのは、神様にすまなく思うから、野村さんはその内には、どこか布教に出るようになると思うので、その時は私も一緒に連れて行ってもらいたい、私は霊として、野村さんの、御用のお役に立つように、御用させていただくから。」と申された事があり、先代トヨ親先生は、布教に出られる前に、政治郎親先生にその事申されると、「そういう事であったのなら、つれて行ってやってくれ。」とお許しを頂かれ、昭和二十一年九月二十三日、本当に何も無い、女の身一つで、神様、御霊神様の御供をされ、高岡町吹越での布教を始められたのであります。

先代トヨ親先生四十六歳の時でした。
先代の歌に、

一、身は野辺の木くずと化してくつるとも、道は尊し教えに生きなん。

一、道のため、死ねと教えて已待つ、あらしに向かう布教の庭。

というのがありますが、本当に金光教の教えに命をかけられ、難儀に苦しむ人々が一人でも多く助かる事を念じられ、女の身で心中、この地に骨を埋められるご覚悟の程を思わせていただき、お道の教師として、私どもに、身を持って御教えくださつてあるように、尊く勿体ないことに、思わせていただくのであります。

只々神様、金光様、御霊神様に難儀な氏子の助かりだけを、命をかけられ、真一心で祈り通されたのであります。

先代の真一心の祈りが神様に通じられたのでしよう。布教されて二日目から、病気で命の亡いと言われた人が、おかげを頂かれ、助けられることになり、次々に難儀に苦しむ人々が金光教の信心の中で、先代の祈りにより、神様、御霊神様が生き生きとお働きくださり、救い助けられていったのであります。

でも先代の御生活の方は、筆にも言葉にも、言い表せない程の、御苦勞を下さつての、人の助かりであつたのであります。

土佐高岡教会の布教は、本當に神様が、「世間に何ぼうも難儀な氏子あり、取次助けてやつてくれ。」との御神願を、先代が真一心で受けられての、無からの出發であられたと、思わせていただくのであります。

先代は、本當にご自身のことは、何の欲も出されず、人の助かりだけを祈り通され、神様、金光様、御霊神様、親先生、を頂かれ、多くの人々にも感謝御礼を申され、どのような時もお自身は、「神様にお仕えして御用させていただくという事は、絶対油断をしてはならない事だ。いつも、金光教の看板を、背中に背負っているようなものだから、どんな時も心して行動をしなくてはならない。」と申され、不平不足を言われた事を、聞いたことがないような、御生涯そのことを、実行されたように、思います。

昭和四十七年十月六日、本當に神様のおかげを頂かれ、神様は私の願いを、みな聞いてくださり、させてくださった。何も思い残すことはない、私が死んだ時は、お祝いで送り出してもらいたいと、十月四日御本部の御大祭に皆と共に参拝され、その晩私に遠言のようなお話をされ、有り難いことだと、御礼申され、十月六日に最後まで御取次の御用下さり、御礼を申してお国替えになられたのであります。七十歳でありました。土佐高岡教会で二十六年間御用下さいました。

その後、現教会長、野村穎璋親先生が御用下さる事になり、先代は、至らぬ私どもを、御霊神様として、御守り御導きくだされての、今年は、布教五十年の御年柄の節年を、迎へさ

せていただくことに、なるのであります。

五十年と一口に申しますが半世紀でございますので、振り返り見ますれば、本当にいろいろのことがありましたが、私も、昭和三十年八月十六日、神様より土佐高岡教会に、御引き寄せを頂いてより、今年で満四十年にならせていただきますが、今改めて、神様、金光様、御霊神様のこと、先代親先生のこと、今日まで御信心なさってこられた人々のこと、お国替えになつて逝かれた人々のこと、いろいろのことが偲ばれ、その中で、私も御守り御導きお育てを頂いて、今日あることを思わせていただいた時、本当に祈られている幸せを心に感じ、有り難く勿体なく感無量の思いが致すのであります。

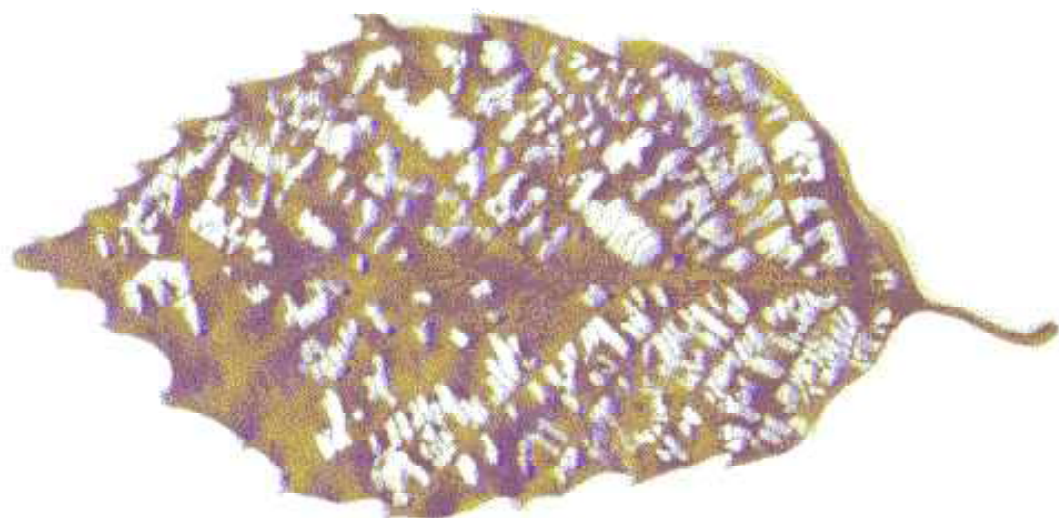
一、虫食いの一枚の木ノ葉

土佐高岡教会、布教五十年祭を、迎えさせていただく願いを改めて、神様、金光様、御霊神様に御願い申し上げさせていただいて、間もない、平成五年五月、教会長である額璋親先生が、体の不調で、病院に診察に行かれると、医師より思いがけない病状を聞かされ、すぐ入院するようにとの事で、腎不全のため入院されたのです。布教五十年祭という、大きな節年を、三年後に迎え、教会長が体の養生をされることになり、教会の御用も今まで教会長がされていたこと、又、病院に行くこと、家庭の御用と、いろいろ私ども他の者でさせていただくことになり、信者さんと共に教会長の病氣全快を、日々、信心の稽古の中に、神様、御霊神様にお願いさせていたくしか、助けていただく道はないと思わせていただいて、御用させていただいている中に、一ヶ月した頃、病状が落ち着いてきたから、後は通院で治療を受ける様にとのことで、退院をさせていただきました。それまでは、教会長が財の御用をしておられたのですが、教会長が今の状態では、財の御用は難しいとのことで、私が、財の御用を預かるようになりました。

その時は、布教五十年祭にお任せさせていただく財は、無の状態でありました。

昭和二十四年より、先代親先生が、どんな財の状態の中にも御本部月参拝は続けられ、その後、現教会長になっても、続いておかげを頂かれていたのですが、いろいろの都合ができ、御祭りだけ参拝され、他の月はお供えを送らせていただいております。しかし、私は、改めて、御本部月参拝のおかげを頂き、金光様にも御礼を申し上げさせていたただくことが、少しでも信心を進めさせていたただくことに、なるのではないかと思わせていたただき、教会長にお話をさせていただきますと、体の都合を見て参拝してくださるとのことと、平成六年五月、改めてお参りをされて、その月、私はいつも心にかかっておりました、教会建物が大分古くなり、修理をさせていたただくおかげを頂きたいけれど、大金のいること、五十年祭までには、教会長も病気をされていられ、諦めるしかないのもあるかと、思わせていたただいていたのですが、思いがけなく、総代さんが、大工さんを連れてこられ、見積もりを頼んでおられたのです。私は、これは、神様、金光様、御霊神様が、願いを叶えてくださるのではないかと、有り難く思わせていたただき、神様、金光様、御霊神様に御礼を申し上げ、総代さん達だけに、財を全部という訳にもならないと思わせていたただき、教会も共におかげを頂くからとのことと、改めてお願いをさせていただきます、平成六年六月八日から、大工さんが仕事に取りかかってくださり、六月二十四日に、事故もなく、教会建物修理、屋根トタン全部葺き替え、樋など全部替えていただき、おかげで仕上がりにしていただき、七月一日には、総代さん達と、教会が用意させていただいた修理代金を、全部お支払いさせていただきますことが、できたのであります。私は、本当に有り難く、勿体なく、心より、神様、金光様、御霊神様に御礼を申し上げさせていたただき、総代さん達がこの御用で困られない様にと、後の立ち行きを、お願いさせて、いただいたことと、ありました。教会として出させていたただいた分には、あつて出した訳ではありませんでしたので、一年かかって、五十年祭までには早くお返しをして、それから、五十年祭をお任せさせて、ただかねばならないからと、改めて、財の御都合、お繰り合わせをお願いさせていただきますながら、御用させていただきますようお願いしました。

ある日のこと、先代親先生の奥城へ参拝させていただいて、布教五十年記念大祭と、秋季霊祭、それと、土佐高岡教会には、二人の先代親先生がおられると、私は思わせていただきました。その、お一人は、布教始めより、本当に御霊神様として、真心で御用下さってある、道願美弥子先生であります。美弥子先生は、御霊神様として五十年になられ、トヨ親先生も二十五年目に入られるので、先代親先生方の年記祭も、お仕えいただいたらと思ひますが、年記祭をお仕えさせていただくということは、財のお繰り合わせも頂かねばなりません。が、どのようにして、おかげを頂いて、お仕えさせていただいたら、いいのでしょうか、お願いもし、御礼申して、帰りかけますと、今まで見たこともなかったような、一枚の虫食いの枯れた木ノ葉が、私の目に見させていただいたのです。拾い上げてみると、本当に木ノ葉の筋だけは、綺麗に残し、所々葉肉が残っているような木ノ葉で、私は、ああそうか、神様、先代親先生が、この木ノ葉を見て、記念祭をお仕えする財のおかげを頂くと、教えてくださったのだと思わせていただきます、一枚の木ノ葉をここまで綺麗に食べるには、虫も本当に、こつこつこつこつ、根気よく食べねば、こんな綺麗な虫食いの木ノ葉は、できなかつたことだと、思わせていただきます、大事にその虫食いの一枚の木ノ葉を持って帰り、私も日々がさりと、金光様が御教えくださってあるが、毎日心がけて、五百円玉貯金をさせていたでいて、お仕えさせていただ



こうと思わせていただき、毎日その枯れ葉を眺め、五百円玉のおかげを頂いた時は、全部入れさせていただき、これで、記念祭の御用、建物修理代のお返しと思ひながら、こつこつこつ、虫と同じような気持ちになって財の御用をおかげ頂いて、御本部月参拝も、せめて今月だけでも、今月だけでもと、おかげを頂くことを御礼申し上げて、いろいろと、神様の方に心を向けさせていたでいていく事になると、私の願ひである財の御用が、一つずつ一つずつ、神様が多くの人々を通して、お働きくださり、真心のおかげを下さって、建物の修理代金も全部お支払いさしてくださり、他の記念祭の準備の御用も、おかげで進めさせていたことが、できるようになり、私は、本当に、勿体ない有り難いことだと、日々神様、金光様、御霊神様に御礼を申し上げ、御用させていただいております。

現親先生も、平成七年五月には、又、入院され、胃カメラで検査をされると、ポリープができていたので、手術をしなければならぬとのことで、その為には、透析を早めてしなければとのことで、八月十六日、初めて透析を受けられ、八月三十日、手術を受けられ、早期発見だったとのことで、後は心配ないとのことで、養生をされ、十一月十日、金光大神大祭の五日前に、無事退院をされ、本当に神様のおかげを頂かれて、十一月十五日の、金光大神御大祭も、御祭主として、お仕えされる事ができ、本当に有り難いことと、御礼申し上げます。せて、いただいたことであります。今は、週三回透析を受けられながら、養生をされ、神様の御用もおかげで、させていただけます。

今日の土佐高周教会布教五十年記念大祭、秋季霊祭、先代親先生年記祭は、神様、金光様、御霊神様、高知親教会親先生始め先生方、多くの信奉者一同の方々の、御守り御導き、御祈念添えを頂きまして、万事の上に、ご都合お繰り合わせを頂き、このように、お仕えさせていただきます。いただけるようになりました幸せを、私は本当に、有り難く勿体なく感無量で、御礼より他にございません。祈られる幸せをつくづく有り難く、御礼申し上げます。ありがとうございます。厚く御礼を申し上げます。又、五十年祭で終わりという訳ではございません。一つ

の大きな節年として、御礼を申し上げさせていただいたことで、これから又、新たに第一歩を踏み出させていた দিয়ে、おかげを頂いて、いかねばならないことで、ございますので、今後とも、御守り御導きお育て、御祈り添えいただきます様、よろしくお願い申し上げます。本当に、御礼の気持ちを書かせていただきました。ありがとうございました。厚く御礼を申し上げます。

- 先代の布教も無から始まりて、五十年節年神みかげ受け。
- 霊神となりて布教にい出まして、先代共に道の御用に。
- 虫食いの枯葉一枚拾い上げ、神の教えと受けて御用に。
- せめてもと、これだけでもと神祈り、仕へる心真なりけり。
- 五十年仕へる程に神祈り、神の恵みで有り難きこと。
- 新玉の年波数え五十年、今日の御祭り感無量にて。

神信心

◎職員名簿

祭主	道願	正道	親先生	(高知)
副祭主	野村	穎璋		(土佐高岡)
先唱役	内田	常雄	先生	(夜須町)
捲簾役	道願	光三郎	先生	(高知上町)
捲簾役	野村	真二		(土佐高岡)
祭詞後取	大石	允子	先生	(豊永)
玉串後取	野村	登茂子		(土佐高岡)
賛者	野村	清治		(土佐高岡)
賛者	西川	英資	先生	(越知)
典礼	竹内	一典	先生	(須崎)

布教五十年記念大祭



並びに秋季靈祭及び式次第

道願美弥子姫五十年祭
野村トヨ姫二十五年祭

先、次、次、次、次、次、次、次、次、

祭捲拝神取祭祭天副

前次主地主祭

拝唱祭玉書
主

詞詞串附
玉

奉奉奏奉奉
串

座事礼唱唱上奠体奠

員簾

着行

◎ 祭典後教話

金光教高知教会長

講師

道願 正道 親先生

講題

「今月今日 信心する者は行く」

読師

金光教高知上町副教会長
道願 光三郎 先生

◎ 吉備舞奉納

舞人

野村真希（土佐高岡）

◎ 神人の栄光

一、

天地は神のふところ
人はみな神のいとし子
かぎりなき神徳のなかに
生かさるるわれ等うれしき

二、

人の世にとわの光を
いとし子につきぬみかげを
誓わしし教祖の神に
救わるるわれ等うれしき

◎真心の道を迷わず失わず

一、真

末

教の迷心

ええ末わの

伝伝まず道

ええで失を

よよわ

ず

二、

真末

教の迷心

ええ末わの

伝伝まず道

ええで失を

よよわ

ず

平成8年9月23日発行

宗教法人

金光教土佐高岡教会

教会長 野村 颯 璋

〒781-11

高知県土佐市高岡町乙129番地4

TEL (0888) 52-1402

発行者 野村 清 治

